九州歯科大学

第六十二回卒業式式辞

式辞

本日、ここに、小川洋福岡県知事をはじめ、来賓各位ならびに保護者の皆様のご出席を賜り、第六十二回卒業式を挙行できますことは、卒業生はもとより九州歯科大学教職員にとっても大きな慶びであります。ご多用中にもかかわらず、本日、ご臨席を賜りました来賓の方々に厚く御礼を申し上げます。

また、本学に入学以来、成長を見守ってこられた保護者の皆様方におかれましては、その歓びは一方ならぬものと拝察申し上げます。教職員を代表してお祝い申し上げます。

さて、歯学科六十二期生および口腔保健学科一期生の皆さん、卒業おめでとうございます。今日の皆さんは、卒業証書・学位記を手にして、入学時から今日までの思いが去来して、感無量のことと思います。送る立場の我々教職員も、社会に貢献する学士に育て上げたという安堵感とともに、これからの厳しい実社会での成功を願い、今日この場に臨んでおります。とくに、

今回、口腔保健学科1期生の晴れがましい姿を前にして、その思いはこれまで以上に一層強いものとなっています。

皆さんは、先日受験した歯科医師国家試験および歯科衛生士国家試験の合格発表を受け、晴れて歯科医師・歯科衛生士の資格を得て、口腔保健医療活動に携わることになります。ただし、君たちは、これまでの歯科医学教育を通して、歯科医療人として出発点にたったもののこれから先、生涯歯科医療人として、実践力を自らの手で高めていく必要があります。今後、自ら考え自律した生活の中で、生涯研修に精進することを心から願っています。

九州歯科大学は、大学の理念に「高度な専門性を待った歯科医療人の育成」を掲げ、実践的な歯科医療人の育成教育を行ってきました。さらに、平成二十四年から、第二期中期計画において、学部学生ならびに大学院生の教育改革の一環として、グローバルな人材育成のための基盤整備事業を開始し、海外八大学と教育連携協定を締結しました。今後、グローバルな視野を持った歯科医療人育成に努めます。

一方、皆さんは、我が国における歯科医療が大きく変化していくなかで学生生活を過ごし、

さまざまな局面で戸惑いを覚えたことがあったかもしれません。しかしながら、私は、君たちに対しいかなる状況にあっても、自分を信じて、自ら考えて行動する社会人になることを願っています。今、ここで、学生時代に参加した宿泊研修 WADSキャンプで誓ったことをあらためて思い起こしてください。そのうえで、プロフェッショナリズムの精神を醸成する教育を受けた君たちには、高い志を持った歯科医療人として、社会で活躍することを切望いたします。

九州歯科大学は、記念すべきことに、本年、創立百周年を迎えます。現在、県立大学から公立大学法人に変わりましたが、九州歯科大学は、設置団体の福岡県の温かい支援のもとで、これまで通り、歯科医療界を牽引する歯科医療人を育成していくことに変わりはありません。

現在、九〇〇〇人余りの卒業生が、全国各地で地域歯科医療に大きく貢献しています。今日卒業する君たちも、これから各方面で活躍し、本学のプレゼンスを高める活動をしてくれるものと信じています。

一方、福岡県は、アジアのゲートウエイとして様々な活動を行っています。そのようななか

で、本学も、昨年、アジア諸国では、ミャンマーの２つの歯科大学、台湾の高雄医科大学、香港大学、タイのシーナカリンウイロート大学、インドのスリ・ラマチャンドラ大学、さらに欧米では、フィンランドのヘルシンキ大学、カナダのブリティッシュコロンビア大学、以上８大学の歯科教育機関と教育連携協定を結び、学生と教員の連携を深める活動を開始しました。現在、Kyushu Dental University という英語名に相応しい大学を目指し、Global and Local Academic Collaboration を掲げ、教育改編に邁進しています。今後、すべてのライフステージにおける口腔保健の向上を通じて、国民の全身の健康増進を図るという歯科医療の新たな展開は、我が国のみならず、世界的レベルで求められます。このような認識のもと、諸君も栄えある Kyushu Dental University の卒業生として、歯科医療人としてグローバルな道を歩むことを強く望みます。

むすびに、卒業生諸君が世界各国で活躍することに思いを馳せて、Hope is wish for something to come true by action という一文を紹介し、私から卒業生諸君に、日々の医療活動のなかで、この言葉を胸に納め、夢と希望

を失うことなく生涯研修に励み、世界にはばたくフロントランナーとして活躍することを切に願って、私の式辞と致します。

平成二十六年三月十四日

九州歯科大学

学長　西原　達次